



TITLE:

石灰化,骨形成を認めた腎腺癌の 1例

AUTHOR(S):

加藤, 篤二

CITATION:

加藤, 篤二. 石灰化,骨形成を認めた腎腺癌の1例. 泌尿器科紀要 1972, 18(1): 3-4

ISSUE DATE:

1972-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/121342>

RIGHT:

石灰化、骨形成を認めた腎腺癌の1例

京都大学医学部泌尿器科学教室

加 藤 篤 二

ADENOCARCINOMA OF THE KIDNEY WITH CALCIFICATION
AND OSTEOUS TISSUE: REPORT OF A CASE

Tokuji KATŌ

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University

A 48-year-old woman was admitted because of left flank mass. Left nephrectomy was performed under the diagnosis of renal tumor. Histologically, the tumor was typical adenocarcinoma, and the stroma showed calcification, cartilaginous and osteous tissue formation.

はじめに

腎癌の組織中に石灰化、骨形成を認めた症例について記載する。

症 例

患者：48才の女子，初診1940年5月28日。

主訴：左側腹部の緊満感。

個人歴：生来健康にて著患なく，結婚（20才）後不妊にて38才時子宮内膜炎をわずらい以後閉経。

現症：初診の約2年前より尿混濁をきたし，腎炎の診断をうけたことがあり，医師の治療をうけたが，軽快せず，初診の3カ月前より左側腹部に緊満感を覚え体動によって増強するという。尿の混濁も消失していないが血尿の訴えはない。

所見：体格中等度，栄養佳良，胸部に著変なし。腹部で右腎は3横指触知され，表面は平滑で可動性であるが圧痛はない。左腎は著明に触れ下極は臍位で表面は凹凸を示し硬い。膀胱部に異常なく，尿はやや混濁を示す。膀胱鏡所見では粘膜は一般に正常で，青排出は右7分30秒（+），9分10秒（++），11分（+++），左9分（++）以後濃青化せず。単純撮影では左腎野に石灰化陰影が散在し，逆行性腎盂撮影では右腎盂正常，左腎盂の像は不明瞭で5.5×4.2 cmの円形像を呈した。PSPは1時間45%，2時間10%，3時間1%，計56%。分腎尿の所見では右は蛋白（-），白血球（-），赤血球（-），上皮（+），左は蛋白（+），白血球（+），赤血球（-），上皮（+++），血液像では赤血球545万，血色

素75%，白血球5600，血沈値1時間44，2時間90。

以上により左腎腫瘍として6月25日，腎摘出をおこなったところ，癒着は少なく摘出腎重量は670 gで，18.5×9×6.2 cm，腎の断面をみると腫瘍は腎上半を占め小児頭大で下半の腎はほぼ正常，腎盂は著明に拡張して囊腫状を示した。術後経過順調にて8月3日退院した。

病理所見：腫瘍は定型的な腺癌像を示し，乳頭状を呈している（Fig. 1）。間質の一部には散在性の大小不同の石灰化像（Fig. 2），ならびに骨組織周辺の軟骨組織（軟骨細胞の出現をみる，Fig. 3），腺癌組織に接近して骨腔と骨板像を呈する骨形成（Fig. 4, 5）がみられた。

ま と め

腎組織中に骨形成の出現する点については従来より多数の文献があるが，病的腎については本邦では発育不全腎（安藤ら），結石腎（水本ら）の報告に接する。一方，腎腫瘍の石灰化については文献では，海外ではCahillらの82：14，Mishalanyの15%なる記載があるが，本邦では楠の33：3，筆者の25：2という統計があげられている。このうち石灰化と骨形成を腎癌組織に認めた報告は川野らの2例にすぎず，他は北川の骨合併例のみである。石灰化より骨形成に至る機転について川野らも考察しているが，Batts, 小林らのいうごとく，石灰沈着を基とし

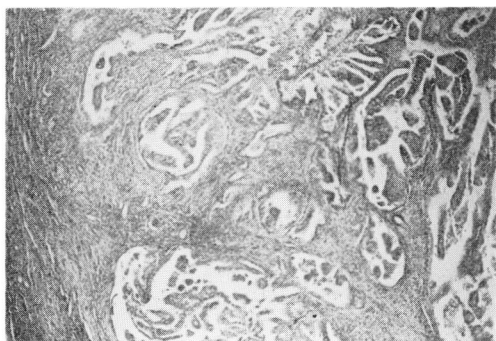


Fig. 1

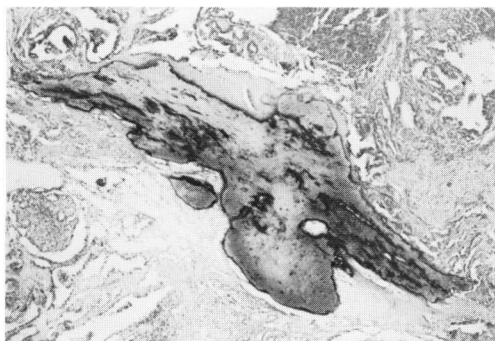


Fig. 4

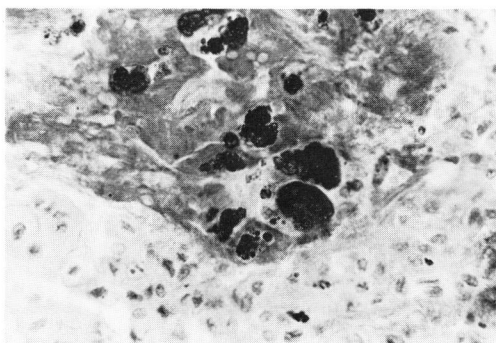


Fig. 2

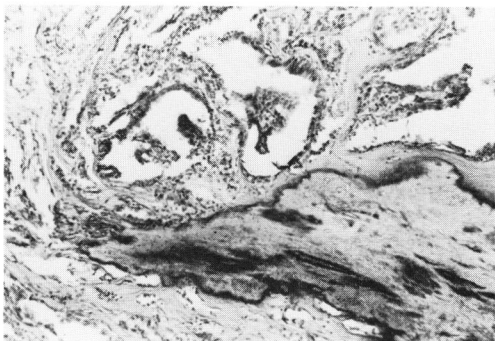


Fig. 5

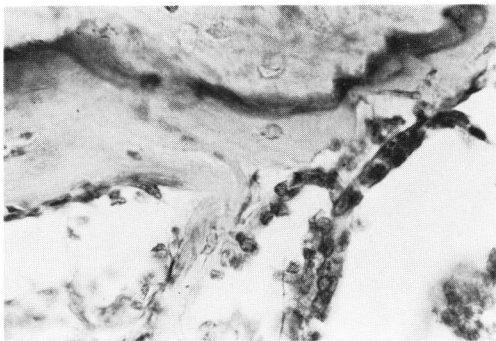


Fig. 3

て、腫瘍細胞による結合組織の誘導化生を考えるのが至当であるが、自験例では石灰化、軟骨組織、骨形成が如実に示されている珍しい症例であった。

主 要 文 献

- 1) 安藤ら：臨床泌尿科，**21**：869，1967.
- 2) Batts：Am. J. Surg.，**49**：390，1940.
- 3) Cahill et al.：J. Urol.，**39**：276，1938.
- 4) 小林：日病会誌，**50**：91，1961.
- 5) 水本ら：臨泌，**21**：443，1967.
- 6) 北川ら：臨皮泌，**9**：189，1955.
- 7) Mishalany et al.：J. Urol.，**78**：330，1957.

(1971年12月23日超特別掲載受付)